



「Introduction to Problem Solving in Biomechanics」

Christina von Heijne Wiktorin and Margareta Nordin 著

理論の上で知ることと体験を以て把握することとは、基本的にかなり違う。例えば、交通の教則を読むだけで自動車の安全運転ができるとは考えがたい。実習の有無によって、安全運転の能力が影響されるわけである。それと同様に、生体力学の知識が使い物になるかどうかは、演習問題を体験することにより左右される。とりわけ入門的な段階では、生体力学の演習問題を通して臨床上の見方の一側面が鋭敏になり始める。私は、生体力学の演習問題をいくつか作ってみたことがあるが、時間不足でなかなかうまく進まなかった。そこで、本書の題名を広告から見い出して、早速注文した。

本書は、理学療法的な問題を中心にして、難しい数学的な説明を避けてある。力学の原理を説明するには、豊富な臨床的な例が提示されており、わかりやすい想像的な絵も臨床家にとって参考になるであろう。すべての演習問題の解答が丁寧に備えられているので、本書を自習の材料にすることもできる。

本書の仕組は10章よりなり、各章の題名は1) 数学

の復習、2) 生体力学の基本原理、3) 第4章から第10章までの例題への入門、4) 足関節、5) 肘関節、6) 肩関節、7) 股関節、8) 膝関節、9) 腰部の脊柱、10) 頸部の脊柱、付録として身体部位係数、関節角度対最大等尺性収縮などの資料も備えられている。

生体力学はかなり広い分野である。本書は、剛体静力学の応用しか取り上げられていないので、生体力学の範囲をここから知ることができない。しかし、力学の第一歩として剛体静力学から出発するのは当然である。本書は、そういう意味で理学療法士向けの見事な入門書である。これを養成課程の教科書にすれば有力な理学療法士を育てられるに違いない。卒後教育としても自習の教材にふさわしい。和訳を是非勧めたいぐらいで、本書を推薦するものである。

(B4判変型, 頁180, \$28.50, 1986年, Lea & Febiger (Philadelphia) 刊)

(ボバース記念病院 理学療法士

ポール・アンドリュース)

<PT・OT 協会合同ニュース>

第13回理学療法士・作業療法士養成施設等教員長期講習会 (厚生省主催)の開催についてのお知らせ

昭和61年度の上記講習会は、東京(昭和62年1月～2月, PT 30名, OT 30名)と大阪(昭和62年2月～3月, PT 30名, OT 20名)での開催を予定しています。『受講申し込み用紙』入手希望者は、返信用定形封筒と切手60円分を同封の上、『講習会案内および申し込み用紙郵送希望』と明記の上、下記まで申し込んで下さい。なお本年度も各施設への案内発送は行われませんので御注意下さい。

申し込み先: 日本リハビリテーション医学会事務局
(〒173 東京都板橋区小茂根1-1-10)
心身障害児総合医療療育センター内
(Tel. 03-974-4370)

申し込み締切日: 9月30日消印有効

受講対象者: 次の各号に該当する者とする。

- 1) 理学療法士又は作業療法士の免許を有する。
- 2) 免許取得後、原則として3年以上の業務経験を有する者。
- 3) 本講習会終了後も理学療法士又は作業療法士の教育に従事しようとする者。
- 4) 原則として50歳未満の者。

(日本理学療法士協会広報部・日本作業療法士協会事務局)